

J-SRI 研究会フリートークキング・記録

日時：2020年7月24日（木）18:00～19:20

場所：オンライン

出席者：佐藤、鳥山、登尾、的場、溝口、宮里、山路、横山

1. はじめに

前回研究会（2019/12）以降の近況、とくに SRI に関して報告しあった。新型コロナウイルスの影響もあり、今日まで活動は停滞していた。

2. 会員等の動向

逢坂福信さん：宍塚で栽培実験継続中。

- 今年のテーマは、①間断灌漑の効果、②乳苗の優位性。①について、排水路を深くしたので、地下水位は昨年よりも制御できている。

阿部正雄さん（2020/7 入会）：自然型稲作・気候変動適応型稲作研究会/魚沼越光.com

- 阿部氏のグループが実施中の稲作の特徴は、ポット育苗と尺角疎植だが、今後 SRI に挑戦したいとのこと。
- J-SRI 研究会が送付（販売）した本「稲作革命 SRI」5冊を稲作仲間で、佐藤（プロネット 21）が贈呈した本「ラオス SRI 稲作普及事業 11 年の軌跡」10冊を稲作仲間および JA 魚沼で読んでいる。
- Wikipedia に阿部氏が「SRI 農法」記事を書いた。J-SRI 研究会で、確認・修正してほしいとのこと。

Brett Waterman さん（問い合わせのみ）：

- オーストラリア人。いわきで農業修行中、いずれは会社を持ちたい。

3. 今後の研究会の持ち方

- 幹事会を2か月に1回程度開催する。
- 今年度第1回は、9月14日(月)18時より zoom で開催する。
- 研究会も可能な限り開催する。
- 話題提供候補は、①逢坂さん：宍塚（現地もあり）、②JIRCAS 柳原さん：タンザニアでの AWD 実験、③明治大学の実験、④阿部さんの稲作。いずれも未交渉。

4. その他（）

- アポフ教授からのオファー（執筆中の「The System of Rice Intensification : Memoires of an Innovation」の日本に関する記述の確認）については、山路・溝口が早急に対処する。
- 阿部さん（新潟県南魚沼市在住）を鳥山氏（新潟県上越市在住）が訪問し（車で2時間）、J-SRI 研究会についての正確な理解をしてもらう。

以上

提案：

1. この会を、2020 年度第 1 回幹事会と称して良いですか？
 - 良いと思います（佐藤）
2. J-SRI 研究会 HP が去年の記載のままでは寂しいので、以下を掲載する。
 - 良いと思います（佐藤）
 -

研究会のみなさまへ

新型コロナウイルス感染症の広がりによって、皆様におかれては、仕事の面、生活の面、あらゆる場面で不自由な日々をお送りと思います。もしもご自身もしくはお近くの方で感染もしくはその影響を受けた方がおられましたら、心よりお見舞いを申し上げます。とともに、早期のご快復を祈念いたします。

J-SRI 研究会の行事も、多くの不自由を強いられることとなりました。2020 年度の研究会は、いまだ開催できておりません。感染確認者数が増加しているいま、この先しばらくのあいだ、対面での研究会開催は実施できそうもありません。そこでオンラインの研究会の開催を考えております。

とくに都市部での新型コロナウイルス対策は急務ですが、稲作は例年通り続けなければなりません。農村地域から「直接のコロナの影響」はそれほど多くは聞かれませんが、学校給食の中止で出荷先が減った、海外からの農業研修生が来られなくなった、等の事例は多いようですし、今後の都市との往来の拡大に懸念が持たれています。

J-SRI 研究会は、規約第 2 条「SRI に関する情報を収集・蓄積することを通して日本の SRI 情報センターを目指すとともに、国内および海外における SRI に関する学術調査研究を推進し、もって SRI のさらなる普及に寄与すること」を目的としており、今後とも活動を続けて参りますので、会員のみなさまのご支援・ご協力を、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

2020 年 7 月 24 日

J-SRI 研究会 幹事会一同